

ぽむ・ぽむ通信

No. 57

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぽむぽむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ支援活動に積極的にご活用ください。



～2012年度 ユニセフリーダーセミナーから～

ぽむ・ぽむ通信 No. 57

目次

◇アフリカ干ばつ緊急募金	～サヘル地域 ニジェール、ナイジェリア、マリの状況～	1
◇知っとこ。ユニセフ	公平性④ ～ミレニアム開発目標達成をめざして～	4
◇世界の子どもたちは今	自然災害緊急支援	5
◇生協のユニセフ支援活動		6
	* コープいしかわ * さいたまコープ	
◇トピックス		8
	* 子どもたちの未来を支援するために・アフガニスタン編	8
	* 2012年度 ユニセフリーダーセミナーを開催しました	10
	* 「CO・OP コアノンスマイルスクール プロジェクト」の取り組みについて	13

ぽむぽむ通信 活用のすすめ

- ・ すべてのページをコピーしなくても、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料としてご活用いただけます。
- ・ ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に資料としてご活用いただけます。
- ・ 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- ・ 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- ・ 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでのご使用をおすすめします。



アフリカ干ばつ緊急募金

～サヘル地域 ニジェール、ナイジェリア、マリの状況～

2012 年 6 月 11 日、ユニセフは今年の 4 月までに、重度の急性栄養不良で治療を受けた 5 歳未満の子どもは、25 万人であることを明らかにしました。

ユニセフはこの 1 年、サヘル地域全体で少なくとも 110 万人の子どもたちが栄養不良で治療が必要になるものと見込んでいます。

本号では、特に状況が厳しいニジェール、ナイジェリア、マリの状況についてまとめました。



サヘル地域の栄養危機

(資料: 日本ユニセフ協会 HP より)

◆ ニジェール ～3重の危機～

コレラは、サヘル地域で周期的に流行しています。しかし今年は、マリ北部での紛争で避難を余儀なくされた人々が広範囲にわたり避難してきているため、状況はさらに悪化しています。現在までに、5 万 2,000 人がニジェールに避難を余儀なくされました。こうした人々は、社会サービスへアクセスするのが困難であり、また、最近の食糧危機と栄養危機による最も大きな影響を受けている地域で生活しているのです。



©UNICEF 2012/Niger/Soumalia
叔母のアスファトゥさんに抱かれるアブドゥ・サラムちゃん(生後4ヶ月)の母親は、6月にコレラにより命を落とした。ニジェール西部は、今年、マリ近隣から避難民が流出しているため、コレラの感染がさらに深刻になっている。

ユニセフとパートナー団体※は、今年、重度の急性栄養不良で治療が必要になる 5 歳未満児は、39 万 4,000 人近くに上るものと推定しています。栄養不良のためにすでに衰弱している子どもは、コレラで命を落とす深刻な脅威にさらされています。栄養不良の治療を受けたとしても、汚染された水を利用して、すぐにまた病気に陥ってしまうのです。

コレラ感染者への治療は極めて重要ですが、コレラの予防対策についてコミュニティを教育することは治療以上に効果のあることです。

ユニセフは、パートナー団体と共に、避難民キャンプを含むコレラの高い危険にさらされている地域で、1 軒 1 軒家を回り、コレラ予防のメッセージを広め、予防活動を行っています。コレラの感染を防ぐために非常に有効な石けんを使った手洗い等、適切な衛生習慣を各家庭に伝えています。また、ユニセフは、安全な飲料水へのアクセスを確保するため浄水剤も配布しています。

※パートナー団体・・・ユニセフと一緒に活動を行う地元・国際 NGO 等

◆ ナイジェリア ～地域で栄養不良の子どもたちを治療する取り組み～

ナイジェリアでは、現在、25 万人近くの子どもたちが、重度の急性栄養不良で命の危険にさらされていると推定されています。

この地域に住む人々は、主にギニアコーンなどのトウモロコシと米を食べています。これらの食品には、炭水化物は豊富に含まれているものの、子どもが必要とする他のさまざまな栄養素を摂取するには十分ではないのです。

こうしたことが原因で、現在、何千人もの子どもたちが、外来治療センターで治療を受けています。ユニセフは、子どもたちの急性栄養不良問題をコミュニティ管理(CMAM)と呼ぶ統合保健戦略の一環として進めており、こうしたセンターの運営も支援しています。



子どもたちは、センターの“待合室”となっている木の下で順番を待っています。全員が、急性栄養不良の典型的な症状を示していました。手足のむくみやたんぱく質欠乏症の明らかな兆候を示す子、また、慢性的な下痢、嘔吐に苦しむ子もいます。しかし、継続的な治療は、病院への入院という形ではなく、子どもたちが住む地域の中で行われています。

子どもたちは、定期的に体重が測定され、医薬品や栄養補助食品を提供されています。お母さん方には、栄養や衛生についての知識が提供されています。予防接種を受けられなかった子どもたちのために、このセンターでは、予防接種の機会も提供されています。

現在までに、このプログラムによって治療を受けた5歳未満の子どもたちの数は、1万6,000人。カツィナ州では、3万1,000人の子どもたちに支援を届けることを目標としています。この州の取り組みは、他の地域のモデルになっています。

◆マリ ～マリ北部でコレラが流行～

干ばつに苦しむサヘル地域に位置するマリではいま、コレラの広がりが危惧されています。ユニセフは、緊急支援活動の一環としてこの状況に対処するべく、水と衛生キット2万セットをマリ北部に急送しています。

現在、コレラの脅威にさらされているマリ北部のガオやティンブクトゥに暮らす6万人の子どもたちを含む約12万人に、浄水剤、貯蔵容器、そのほかの資材といった支援物資が届けられる予定です。こうして届けられた支援物資は、地元パートナー団体を通して配布されることになっています。

コレラが流行し始めた約 10 日前から、マリ北部では、ニジェール川沿いに位置しているガオ地方のワバリア、ラッベザンガ、アンソンゴで 56 人が命を落とし、そのうち 6 人が子どもでした。

コレラは、サヘル地域の他の国々でも流行していますが、大量の避難民を出しているマリ北部の人道危機と雨期の開始によって、今後数週間で、コレラの発症件数が、急激に増加する恐れがあるものと懸念されているのです。



©UNICEF/NYHQ2010-2393/Asselin
マリのカヤス地域ファタオ村にある小学校で手洗い
をしている子ども(2010 年)※写真はイメージです

コレラの流行が報告されてからすぐに、ユニセフは、500 件のコレラの発症件数に対応しているガオのパートナー団体のために、医薬品や機材を運ぶための 3 台のトラックを手配。また、50 万人のコレラ予防対策が、流行する危険の高い地域で既に実施されています。キットの配布と共に、水を浄化する方法の説明や、より良い衛生習慣を促す取り組みも行われています。

今週配布した 2 万セットの水と衛生キットには、折りたたみ式の貯水タンク、バケツ、6 人家族が十分に使用できる量の石けんと浄水剤 6 カ月分などが含まれています。



ユニセフは、2012 年 6 月、新たに 2 億 3,800 万ドル(約 190 億円)の支援を国際社会に呼びかけました。しかし、まだ 1 億 4,600 万ドル(約 117 億円)が不足しています(2012 年 6 月末時点)。

(出典: 日本ユニセフ協会 HP「アフリカ干ばつ緊急募金 第 74 報、第 79 報、第 81 報、第 83 報」を編集)

◆ アフリカ干ばつ緊急募金 ◆

日本ユニセフ協会では引き続きアフリカ干ばつ緊急募金を受け付けておりますので、あたたかいご支援よろしくお願いいたします。

郵便局(ゆうちょ銀行)募金口座

振替口座: 00190-5-31000

口座名義: 公益財団法人 日本ユニセフ協会

*通信欄に「アフリカ干ばつ」と明記願います。

*送金手数料は免除されます。

知りたい?

知ってこ。ユニセフ

公平性 ④

～ミレニアム開発目標達成をめざして～

公平性シリーズの最終回です。

公平性を大切にして、格差の是正をめざし、困難であっても一番困っている人へのアプローチを優先する。平均値を上げやすい人を対象にした支援を優先しては、格差は広がるばかりです。

ここにそれをわかりやすくあらわしたイラストがあります。

高くて届かない林檎。これを後回しにしてはいけません。
高いところにある林檎 = 最も支援を必要としている人たち。
例えば、最貧層の人々・・・ここに焦点をあてることが大切。
そしてそれは 何よりも、効率的により多くの人が救えます。

これが「公平性に重点を置いたアプローチ」です。
ミレニアム開発目標達成をめざす近道であることを、
ユニセフは科学的な検証から提言しています。



ユニセフニュース vol228 P2 より

☆ 残りの 10 パーセント ☆

公衆衛生サービスが 90 パーセントの子どもたちに提供できても、残りの 10 パーセントの子どもたちにいかに早く同様のサービスを提供するか。

それを考えるのがユニセフのスタッフとしては重要なことだと思います。

☆ ユニセフの強み ☆

ユニセフはたくさんの専門家の集まりです。政府をパートナーにしつつも、他方では現場の NGO やコミュニティの人たちとも密接に協力できます。「現場の現実」を知っているのです。

現場のデータは客観的なもので科学的根拠となります。新しいチャレンジを許してくれる革新的な精神があるのも特徴です。

ユニセフニュース Vol.228 P4・5 ～ユニセフ東京事務所所長 平林国彦氏「ユニセフ新戦略」～より抜粋・編集

「世界子供白書」の巻末統計に公平に関する項目が増えています

- ・ 2011 年度版・・・「公平性指標」
- ・ 2012 年度版・・・「公平性指標 居住地域」「公平性指標 世帯の豊かさ」

《都市に生きる子どもたち》がテーマの 2012 年度版では、都市部と農村部を比較した格差だけでなく都市の中で埋もれている格差にも目をむけています。

最後に下記の言葉を あらためてお伝えいたします。

「公平性に重点を置いたアプローチ」

「公平性と子どもを最優先するユニセフ」

「最も貧しく困難な条件に置かれている子どもたちへの支援を行えば

より多くの命を救うことができる」





世界の子どもたちは今

自然災害緊急支援



今日は干ばつや洪水などの災害で、どんなことが起きるのか。ユニセフがどんな仕事をしているのか調べてみよう！

ユニセフはいつでも、いち早く現地に急行して緊急支援活動を行っているんだよね。

子どもたちの命と子どもたちの権利を守るための活動だね！



衛生的な水が手に入らない



農作物に被害



家畜が死亡



食糧が手に入らない

●衛生的な水の提供
〔給水車・井戸の設置〕

unicef



食糧の値段が、はね上がる



家計がひどく苦しくなる



父親が出稼ぎに出る



子どもたちを学校に行かせる余裕がなくなる

●文具等の支援
●制服の支援

unicef



子どもたちが栄養不良になる

●栄養状態の把握
●母乳育児のすすめ

●栄養補助食品の提供

unicef

●病気予防の知識の教育
●手洗いキットの配布
●トイレの設置

unicef

●医薬品の提供

unicef



コレラや下痢などの病気にかかりやすくなる

参考資料 ユニセフニュース Vol.233, p.2「ユニセフの対処方法（一例）」より

生協のユニセフ支援活動 Partnership



コープいしかわ 能美市立図書館でユニセフパネル展を開催しました

コープいしかわでは、8月1日から12日まで、能美市立図書館でのユニセフパネル展を開催しました。今年は、東日本大震災被災地での、ユニセフによる支援活動の様子などを中心に展示しました。



夏休みには、宿題をする小中学生や高校生、子どもたちの家族など、大勢の人が図書館を訪れます。子どもたちや家族に、「ユニセフ」やその活動について知ってもらおうと、毎年この時期にユニセフのパネル展を開催しています。



能美市立図書館でのユニセフパネル展

コープいしかわのユニセフ担当職員、橋本さんに話を聞きました！

ユニセフ活動に対して、能美市や図書館から理解が得られ、展示場所も無料で借りることができるのでありがたいです。

パネルは、日本ユニセフ協会を通して借りて※います。多くの方に見ていただくため、広報活動として、コープいしかわのホームページにご案内を掲載するほか、毎週発行している組合員さん向けの広報誌でもお知らせしています。

図書館にきたときに、何気なくユニセフの活動の様子を目にすることで、子どもたちが少しでも興味を持ってくれたらうれしいですね。

※パネルの貸し出しを希望される場合は、日本ユニセフ協会団体・組織事業部 パネル担当
<03-5789-2012>までご連絡ください。



さいたまコープ 夏休み企画 ゲームを使った学習会を行いました

さいたまコープ東北地区では、7月30日、コーププラザ春日部で「ユニセフ学習会」を開催しました。夏休み中ということもあり、親子連れの参加者が多く見られました。

自由研究の題材にしたい、また、家族で世界の状況について学ぶ機会にしたい、という思いから参加される方が多かったようです。

学習会では、写真を見ながら講師の説明を聞き、開発途上国の子どもたちの生活について学んだのち、参加型のゲームを通じて、世界の子どもたちの現状について学習しました。実際の水がめを使った水運び体験のほか、『くさりゲーム』で、世界の「不平等」について考えました。

『くさりゲーム』とは・・・

グループに分かれ、折り紙で「くさり」（七夕のかざり等に使われるもの）を作り、お金に換えるゲームです。ゲームを通じて、貿易の仕組みや「不平等さ」を学びます。

《ルール》

- ① グループごとに分かります。それぞれのグループに「くさり」を作るための材料・道具（新聞紙、色画用紙、はさみ、のり、鉛筆、定規）を渡します。
※このとき、道具の数は、グループ間で不公平になるように分配します。
- ② 決められた時間内で、与えられた材料と道具を使って、できるだけたくさん「くさり」を作ります。輪 5 つで 1 本としますが、5 つの輪はすべて同じ紙でできていなければなりません。必要なものをそろえるためにグループ間で物々交換することもできます。
- ③ 最後に、できた「くさり」をコインと換えます。このとき紙の種類や、色でさえなどによって値段に差が生じます。

このゲームでは、グループごとに交渉をして必要な道具・材料を集めますが、不平等な配分をされたグループは苦労します。理不尽な状況を体験することで、世界の「不平等さ」に気づき、考えるきっかけとなります。また、「厳しい状況でも力をあわせることの大切さ」への気づきにもつながります。

《参加者の感想より》

資源や技術のある国と、何も無い貧しい国の違いや大変さを、ゲームを通じて学ぶことができました。



「くさりゲーム」に挑戦



ユニセフ学習会終了後、みんなで記念撮影



子どもたちの未来を支援するために・アフガニスタン編

今年 7 月、約 80 の国や地域・国際機関が集まって「アフガニスタンに関する東京会合」が開かれました。この国際会議は、アフガニスタンの自立に向けた開発と復興がテーマで、各国がどれだけ支援するかが話し合われ、採択された「東京宣言」には、2015 年までの 4 年間に国際社会は、総額 160 億ドル（1 兆 2800 億円）以上を拠出することなどが盛り込まれました。

アフガニスタンでは、保健、医療、教育など人間らしい暮らしに必要な社会インフラの整備が遅れています。多くの子どもたちは「生きる権利」でさえ奪われてしまう状況下において、ユニセフは、乳児と妊産婦の死亡率を減らす保健と栄養プログラム、「子どもの保護」事業プログラム、ポリオ根絶予防接種キャンペーン、子どもたちへの教育支援を実施してきました。

全国の生協で取り組んだユニセフの「アフガン難民緊急募金」から 10 年がたちましたが、生協の 2010～11 年度のユニセフ募金集計報告を見ますと、アフガニスタン人道支援募金への記載があり、募金の名称は変わっても支援は続いていました。

そこで、今号は、国づくりに向けて大きな節目に入ったと思われるアフガニスタンから、最近、政府が発表した女性と子どもに関する調査で見えてきたことをお伝えします。

＜アフガニスタン：政府発表の新データに大きな改善は見られるも課題は残る＞

日本ユニセフ協会ホームページより抜粋

6 月 27 日に発表された中央統計局の調査（複数指標クラスター調査－MICS ※）によれば、アフガニスタンの女性と子どもの保健面、教育面、福祉面において飛躍的な改善がみられることが明らかになりました。飲み水へのアクセスが改善され、学校に通う男の子や女の子の割合も向上し、子どもの死亡率も低下しています。

アフガニスタンの MICS 調査は、ユニセフのサポートにより中央統計局が実施している全国調査です。ユニセフは、子どもの死亡率、栄養、子どもの保健、水と衛生、リプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）、子どもの成長、教育、子どもの保護、HIV/



(C)UNICEF/NYHQ2010-0793/Holt

ヘルマンド州にあるモスクの外で行われているインフォーマル教育の授業に参加する女の子たち（2010）。

エイズといった、女性と子どもに関する実態を示す特定の指標データを提供しています。調査データはアフガニスタン全土の 34 の州すべてから集められました。

「このアフガニスタンの MICS 調査は、ミレニアム開発目標のようにアフガニスタン政府が約束してきたゴールや目標に関する進捗を監視する、アフガニスタン政府の取り組みの一環です」中央統計局長のアブドゥル・ラマン・ガフル局長はこう語ります。

とはいうものの、女性の識字率、予防接種ワクチンの普及、早期出産、教育におけるジェンダーの平等といった改善がなかなか進まない分野も多くあります。また、子どもの保護の分野では、児童労働の蔓延、孤児の学校出席率の低さ、しつけとして行われている激しい体罰を含む子どもに対する暴力の頻度の高さも懸念されています。



© UNICEF/NYHQ2010-0810/Kate Holt

カンダハールにある保健施設で医師の診断を待つ女性と子どもたち（2010）。

このレポートに含まれるすべての分野に通じていえるのは、回答者の背景属性の違いを理由とした大きな格差が存在するということです。しばしばそれは、家庭の社会経済的状況や地域性によって都市部と地方部に大きな差を生み出しています。女性の教育水準は、女性と子どものほとんど全ての指標に関する、一貫して信頼性のある予測指標となります。女性の教育水準が向上すると、多くの指標も改善します。例えば、教育を受けた女性の子どもの死亡率は、教育を受けていない女性と比べて、低くなっています。

「アフガニスタンの MICS 調査は、この国のミレニアム開発目標を期限どおり達成するには、アフガンの女性と子どもの保健や福祉を支援するために、もっと多くのことがなされなければならないということを教えてくれます」ユニセフのアフガニスタン現地事務所のピーター・クロリー代表は、こう語ります。「こうしたデータに注目することで、最も大きな格差を軽減する開発・人道支援活動が、さらに計画的に目標を絞ったものとなるはずです」

日本ユニセフ協会ホームページ <http://www.unicef.or.jp/osirase/back2012/1207_01.html>

※ 複数指標クラスター調査（MICS）とは、国際的に合意された、子どもたちのための開発目標の達成に向けた進捗状況をモニタリングするための、最大のデータ源のひとつです。MICS の指標の多くは『世界子供白書』の統計表にも組み込まれています。



2012 年度 ユニセフリーダーセミナーを開催しました

7月31日、京都で2012年度 ユニセフリーダーセミナーが開催されました。ユニセフ活動に取り組んでいる全国の生協から、16生協・53名が参加しました。

（１）日本生協連と日本ユニセフ協会からの報告

日本生協連からは、2011 年度ユニセフ募金集計と、CO・OP コアノン スマイルスクールプロジェクトの進捗状況の報告、2013 年 2 月に開催が予定されているラオスタディツアーの案内を行いました。

日本ユニセフ協会からは、ユニセフと日本ユニセフ協会についての説明の後、東日本大震災後にユニセフがどのように支援活動を行ってきたか報告されました。

また、2011 年 3 月 11 日に被災地で生まれた子どもたちが登場する動画「ハッピーバースデー3.11」が上映されました。困難な状況で生まれてきた子どもの笑顔に、涙ぐむ人も見られました。



日本ユニセフ協会からの報告

（２）ワークショップ「妊娠と出産について」



「あなたのときはどうだった？」妊娠・出産の経験を思い出しながら、どのような環境でなら、安心して子どもが産めるか議論

世界の妊産婦・新生児をめぐる状況や、ユニセフが実施している出産前後の継続的なケアや教育の重要性などについて考えるため、コープあきた地区リーダーの東條真理さんをファシリテーターに迎えて、ワークショップを行いました。

- ① 日本で妊娠から出産までに受けられる支援
- ② 開発途上国で妊産婦の死亡率が高い理由
- ③ 開発途上国で新生児の死亡率が高い理由

をグループごとに話し合いました。

日本では当然のように受けることができる支援、例えば母子手帳の交付（健康状態の記録）や、健康診断・出産費用の助成、専門スタッフ（助産師・保健師等）の家庭訪問が、開発途上国では経済的・文化的背景から受けられない実状があります。

さらには、安全な出産の基本である衛生的環境や十分な栄養、医師など専門家の診断、コミュニティ内の理解の確保すらできず、多くの女性や子どもが命を落としています。

今回のワークショップでは、「妊娠と出産」をテーマにユニセフが製作した「世界子供白書 2009」の映像も活用し、継続的な支援の必要性について理解を深めました。

（３）ネパール現地報告

2008 年からユニセフ・ネパール事務所で、計画・モニタリング・評価チーフを務める上田みさきさんより現地報告がありました。ネパールの地理や歴史、文化の紹介後、現地の女性や子どもを取り巻く現状について、具体的な指標を見ながら説明されました。



5 歳以下の乳幼児死亡率（1,000 人中 48 人・日本では 2 人）等からわかるように、ネパールで子どもが生まれ育つ過程には、日本では想像し難い過酷な状況があります。栄養状態やトイレの使用状況の統計などにも深刻な貧富の格差の問題が表れています。



現地報告をするユニセフ・ネパール事務所の
上田みさきさん

子どもへの直接的な援助を中心としていた活動開始当初から、制度や政策に関わる支援などを包括的に行っている現在まで、ネパールでのユニセフの活動は変遷をたどってきました。今後 5 年間で取り組む主な活動計画や、予算などについても報告があり、参加者は地道な募金活動で支えられる命があることを再認識しました。

参加者からは、「表面上のことではなく、『くらし』を通じて現状がよくわかりました」「国や人を知ることから活動が始まるからこそ、必要なところに必要な協力が届くのだと感動した」などの声が寄せられました。

休憩時間には、上田さんのお土産「ラブシーキャンディ」（果物から作られた甘酸っぱいお菓子）もふるまわれ、「珍しい」「おいしい」と好評でした。

（４）全国の生協の活動報告と交流

すべての参加生協から、ユニセフ活動の事例が報告されました。募金活動での工夫、学習企画を楽しくするプログラムのアイデア、総代会や委員会での地道な学習・広報活動など、多様な事例が発表されました。

発表後、

- ① 参加の輪を広げる上で悩んでいること
- ② 各生協の活動から採り入れたいことをグループで意見を出し合い交流しました。



各生協からの活動報告

グループ交流の中では、「企画になかなか参加者が集まらない」、「募金が集まらない」など悩みが出され、共通の課題が明らかになりました。

それらに対し、さまざまな工夫をこらして実施された、成功事例も共有され、「この発想は新しい」、「地域に帰ったらぜひ企画に採り入れてみたい」などの声が上りました。



「悩んでいること」「採り入れたいこと」を紙に書き出して共有

《全国での活動例》

- 募金の贈呈式⇒学習企画を併せて開催する。
(例：スタディツアー参加者の報告、水がめ運び、
現地の言葉体験、地雷展示、パネル展)
- スタディツアーの報告会を、地域の高校など
生協以外の場でも開催する。
- ハンド・イン・ハンド募金に取り組む際に、
地域の小学校や、中学校、高校、大学に声を
かけて、子どもや若者の参加の幅を広げる。
- リサイクル活動を通じた募金に取り組む。
(例：牛乳パック、ペットボトルのキャップ)
- 総代会など人の集まる場所で、ユニセフグッズの頒布と募金活動を行う。
- オリジナルの教材を作成し、ユニセフのつどいやハンド・イン・ハンド募金の事前
学習に活用する。
(例：「ユニセフ」すごろく、紙芝居)
- 食を通じたプログラムで世界の国々に興味を持ってもらう。
(例：ネパール料理（サモサ）を作り、日本在住のネパール人家族と交流する。モルディブの大使
を招き、モルディブカレーを作って交流する。)

【参加者の感想より】

改めて「ユニセフ活動とは」と、ふり返る機会となり、参考になりました。東日本大震災後の支援活動についての報告も、興味深いものでした。

2011.3.11 に誕生した赤ちゃんの笑顔、親御さんや周囲の人々の喜びを見て、他の国での出産に思いを馳せることができました。子どもの笑顔は未来への希望です。

子どもの出産・成長のために、女性が大切にされること、女性が知識を持つこと、家族・地域社会を巻き込むことが大切だと、よくわかりました。

平和な社会があることにより、妊娠も出産も安全にできていく。貧困のない社会を、力をあわせて作っていききたい。

他生協の取り組みを聞き、悩みは多いががんばってみようという気になれて、うれしかった。すべて自分たちだけでがんばるのではなく、他の団体と組んでももう少し肩の力をぬいてやっていこうと思った。

初めからグループに分かれてのセミナーだったので不安でしたが、最後にはメンバーと友達になり、これからの横のつながりができて、大変良かったです。

総代会でグッズを売ると、きっと売れると思いました。チャレンジしてみたい。

全体的にとっても充実していました。企画に人が集まらない悩みは、どこも同じですね。地域の学校に手紙を出して、子どもたちに参加してもらう方法を、試してみたい。



「CO・OP コアノンスマイルスクール プロジェクト」の 取り組みについて

日本生協連は、2010年11月より「CO・OP コアノンスマイルスクール プロジェクト」を実施しています。「CO・OP コアノンロール」を1パックご購入いただくたびに1円の募金が積み立てられ、ユニセフを通じてアンゴラ共和国で“子どもにやさしい学校づくり”を支援するために使われます。



2011年11月1日にはプロジェクト第2期目がスタートしました。8月までの10ヶ月間の募金総額は約746万円となっています。目標金額は、10万7千ドル（約900万円）です。10月31日までの残りの期間で、募金活動の強化が必要な状況です。

《生協の活動事例より》

2012 国際協同組合年フェスティバル in メッセウイングみえ



ユニセフの展示コーナーで、
コアノンロールを紹介！

《コープみえ 橋本さん談》

会場には、生協の組合員も多く来場されました。生協に未加入の方にも、商品を購入することで、途上国の子どもの支援になることを伝えました。

もちろん、一度使ったら他のトイレットペーパーを使えなくなるくらい、素晴らしい商品ということも補足していますよ。

「2012年度 ユニセフ アンゴラスタディツアー」に行ってきます！

2012年10月6日～13日、CO・OP コアノンスマイルスクール プロジェクトの指定募金先である、アンゴラ共和国へのユニセフスタディツアーを実施します。参加者は、現地の様子を視察し、子どもの状況とユニセフの支援活動への理解を深め、帰国後は各々の組織や地域で、募金や学習などの活動に経験を活かします。

現地では、実際にこのプロジェクトの募金で支援する予定の学校・コミュニティの視察、子どもや先生との交流などを行う予定です（参加者の募集はすでに締め切りました）。

アンゴラは、アフリカの南西部に位置する国です。
面積は日本の約3.3倍です。約1,908万人の人が暮らしています。

アンゴラの子どものとりまく問題は深刻です。5歳になる前に命を落とす子どもの割合が、約6人に1人。これは世界で下から8番目の高さです。初等教育の就学率は約76%ですが、修了率は50%と、教育の課題も多く残っています（「世界子供白書2012」より）。



現地での日程表（予定）

日程	訪問地	活動内容
1日目 10月7日（日）	ルアンダ州	・オリエンテーション
2日目 10月8日（月）	ビエー州	・サント・アントニオ校（支援予定校） で校内の水と衛生施設を視察 ・ドイス・デ・マルソ校（支援予定校） で校内の水と衛生施設を視察
3日目 10月9日（火）	ビエー州	・研修を受けた先生へのインタビュー ・ユニセフの支援を受けていない学校を訪問、 現在の状況を視察
4日目 10月10日（水）	ビエー州	・クイトの栄養治療センター訪問 急性栄養不良の治療室と退院段階の治療室 を見学
5日目 10月11日（木）	ルアンダ州	・教育省訪問（調整中） ・ユニセフ事務所でふり回り

現地の様子は、「ぼむぼむ通信」No. 58 でも報告する予定です！

ぽむぽむ広場

編集後記

- ◆ 皆さんは、品川のユニセフハウスを訪ねられたことはありますか？品川駅から 5 分程の道のりです。急勾配の「いちよう坂」を登りきると、もうすぐです。
- 「伝えたいことをわかりやすく」と、2 時間のミーティングはあっという間です。興味のある方、あの坂を登って、「ぽむぽむ」に参加しませんか？（松本）

ユニセフ＊コープネットワーク

ぽむぽむ通信

No. 57 2012 年 9 月 14 日発行

編集 **グループ ぽむ・ぽむ**

スタッフ・編集／相澤・尾澤・小池・谷杉・土橋・
浜崎・福本・藤森・松本・山本・
石尾・中村・中本

イラスト／蛸沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 ユー・ブ・ラザ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://jccu.coop/unicef/>

○ぽむぽむ通信No. 57 をお届けします。

今号は、干ばつの被害が拡大するアフリカサヘル地域の中でも、特に状況の厳しい国々について特集しています。

「知っとこ。ユニセフ」のコーナーは、4 回にわたりお伝えしてきた「公平性」シリーズの最終回です。「世界の子どもたちは今」は、災害時に実施されるユニセフの幅広い支援についてイラストで説明しています。

「トピックス」では難民緊急募金から 10 年が経ったアフガニスタンの今をとり上げます。

○次号は、2012 年 12 月 14 日発行予定です。

ぽむぽむ通信・ひとことカード

今回の「ぽむぽむ通信」はいかがでしたか？ご感想やご意見・ご要望をお寄せください。
次号以降の参考にさせていただきます。

生協名：_____

氏名（ペンネーム可）：_____ 《 組合員・役職員・その他 》

ご協力、ありがとうございました！

右記の宛先までお送りください。 宛先：日本生協連 組合員活動部 FAX：03-5778-8125